

ハイリスク児の子育て支援に関する研究

神谷育司 1) 齊藤さつき・河合恵美子 2) 犬飼和久 3) 谷口和加子・安藤朗子・庄司順一 4) 川上 義 5) 奈良隆寛 6) 副田敦裕 7) 吉永陽一郎 8) 松石豊次郎 9) 堀内 勁 10) 山口規容子 11) 前川喜平 12)

1)名城大学 2) 聖隷浜松病院臨床心理室 3)聖隷浜松病院小児科 4) 日本子ども家庭総合研究所 5)日本赤十字社医療センター新生児・未熟児科 6) 埼玉県立小児医療センター神経科 7)都立母子保健院小児科 8) 聖マリア病院母子総合医療センター育児療養科 9)久留米大学医学部小児科 10)聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院周産期センター 11) 総合母子保健センター愛育病院 12)東京慈恵会医科大学小児科

見出し語 ハイリスク児 乳幼児期 母親の養育態度 発達支援 質問紙調査

【要約】 家庭を核とする地域社会の社会的・文化的な社会資源・環境を子育て支援としていかに構築していくかは、今の社会に課せられた大きな課題である。特に、ハイリスク児として出生した児の育児に関わる様々な支援体制を一層整備し、育児を取り巻く環境の変化に対応した手立てが要請される。現実にはハイリスク児の親達が子育てに直面している過程でいかなる問題を投げ掛けているのか、その実態を調査しその姿を浮き彫りにすることを意図した。全国7か所のNICUの施設を対象に母親の育児についての意識、さらには育児支援として何を期待しているかを25項目の質問紙調査法により検討した。明らかな障害を認めえない0歳から6歳未満の乳幼児の母親750名に質問紙を郵送し回答を求めた。346名から回答がえられ、回収率は46.13%であった。なお、ハイリスク児の親が抱えている問題を正期産児との対比により、その問題性を極めることとした。比較児群としての正期産児は7施設のうち3施設を対象に同じ年齢層の乳幼児230名の母親である。結論としてハイリスク児群の親は発達・発達への不安感が高く、ハイリスク児と親だけでなく、その周囲の人たちをも視野にいれた支援システムの構築を強く要望しており、その意味においても社会的な支援体制の確立が望まれている。

【研究目的】 研究の意図の背景には過去の研究に、ハイリスク児(極低出生体重児)へのIntact-survivalといった観点にたつ前川班の研究として、Early Intervention(早期介入、発達支援)によるより望ましい発達への方途を意図したものがあつた。過去の研究経過を踏まえ、今回は発達支援への環境的要因を視野に、乳幼児期の子どもに焦点をあて家庭を核とした地域社会での発達支援の方策を検討することを課題にした。特にハイリスク児を抱えている家庭の親の養育に関わる意識を対象にし、さらに、親の課題に対する社会的支援のあるべき方策を構築することを意図したものである。

【研究対象と方法】 研究の対象は出生体重1500g未満でNICUに入院・養護を受けた、1998年10月末日の時点で0歳から6歳未満に達した乳幼児で明らかな障害を認めない児の家庭である。共同研究グループの施設は日本赤十字社医療センターを始め、聖隷浜松病院新生児未熟児センターなど、上記研究者の所属する7施設である。これら施設のNICUの退院児がハイリスク児群である。なお、極低出生体重児に起因する特性を検討するため正期産児として出生し、7施設のうち神奈川・浜松・久留米の3地域に居住している同年齢層の健康児を、比較対象する群として選定した。これが比較児群である。

研究方法は質問紙調査法に依拠し、質問項目はA「家庭の社会的状況等」についての4項目とB「子育てについて母親が日常生活で体験し感じている」21項目から構成されている。郵送により各家庭に回答を求めた。

【集計結果】

1) 回収率について 7施設合計して750名の家庭に質問紙を郵送し、346名から回答がえられた、その率は46.13%である。比較群は230名である。質問紙を回収した段階で両群に出生体重で当初の調査対象の範疇に該当しない児が含まれていた。今回は対象児の範疇に属しない該当児をも含め、回答を寄せられたもの全ての者の意見を集約した。

対象児の数・性別・体重・両親の年齢等の特性が表1である。ハイリスク児群346名の

表 1 調査対象児

	ハイリスク児群	比較児群
対象児数	346	230
(男児)	158	89
(女児)	165	106
性別不明	23	35
出生体重平均	1229,15	3042,06
(SD)	388,62	439,06
在胎週数平均	30,44	39,57
(SD)	3,83	2,06
父親平均年齢	36,07	36,06
(SD)	5,09	4,77
母親平均年齢	33,37	33,65
(SD)	4,44	3,85

うち性別不明が23名あり、比較児群では230名のうち性別不明が35名である。この性別不明は記載もれである。ハイリスク児群346名の年齢別構成は0歳が38名、1歳が71名で以下、0歳から6歳までの調査対象児の経年的な数は(38・71・79・56・49・31・22)となり、比較児群の経年的な年齢別構成は(45・32・1940・39・25)である。

2) 家族の特性について 両親の年齢構成は両群とも母親の年齢の平均は33歳代で父親の平均年齢は37歳である。職業について、父親の職業は両群にさしたる違いは見られないが、母親の職業についてはハイリスク児群の母親の69,4%が専業主婦であるのに対し、比較児群では17,2%を占めているに過ぎず、比較児群の母親の52,6%は常勤者として就労している。さらに、自営業・パート勤務まで含めると79,9%に達している。母親の就業理由としては「子どもの将来に備えるため」とか「自分の能力・技能・資格を生かすため」とか回答している。年収について1000万以上の家庭が比較群では25,3%であるのに対し、ハイリスク児群では11,0%である。

3) 母性性について 母親自身が「昔から子ども好きな方でしたか」の設問に両群とも半数以上の方が好意的な感情を抱いているのに対して「あまりすきではなかった」とか「どちらかといえば嫌いだった」とする非好意的な感情をもっていた方は両群で15~16%を占めていた。また、「自分の子どもを出産するまでの間に赤ちゃんを世話したことがありますか」の設問に対してはハイリスク児群では22,1%が比較児群では28,9%が「赤ちゃんの世話や相手をしたことはなかった」と回答している。

4) 子どもの成長・発達について 親が子どもの発達の様相をどのように認知しているかについての回答が表2である。

表 2 子どもの成長・発達について

	ハイリスク児群	比較児群
1 かなり順調である	23,19%	18,9%
2 まあ順調である	34,63%	52,23%
3 普通だと思う	18,97%	25,37%
4 少し遅れぎみだと思う	18,67%	3,43%
5 かなり遅れぎみだと思う	4,51%	0,00%

「かなり」とか「まあまあ」順調であると回答している割合はハイリスク児群では57,8%であるのに対し、比較児群では71,1%である。「少し」とか「かなり」遅れぎみであると回答している親がハイリスク児群では23,2%であるのに対し、比較児群では「少し」遅れぎみであると回答している率は3,5%である。子どもの発達の様相については親がどのように把握しているかについては両群でかなりの差がみられる。発達相談の内容はどのような事柄であるかを設問した場合、ハイリスク児群では「運動機能の遅れ」や「体重・身長伸びがよくない」とか、さらには「発育・発達の遅れ」を問題としている。これに対し比較児群では「夜尿」とか「排泄」を問題としている。

子どもの発達上何らかの問題をもっている場合、養育し育てる過程で不安が解消するきっかけとしては両群とも「子どもの発育の様子をみていて」とする親が最も多く、ハイリスク児群では50,5%であり、比較児群では42,6%である。

子どもの発育に関して「とくに不安はなかった」と比較児群では27,3%の親が回答しているのに対して、ハイリスク児群では5,2%である。ハイリスク児群の親にとってはかなり多くの親が子の発育・発達への不安感を抱いていることが伺える。

5) 子育てに役だった医療施設

子育てするうえで親にとって役立つ医療機関として何処をあげているかの設問にたいする回答が表3である。ハイリスク児の親の80%は出産した病院と回答しているのに対し、比較児群では30,48%である。

表 3 子育てに役だった医療施設

	ハイリスク児群	比較児群
1 出産した病院	80,00%	30,48%
2 出産した以外の病院	12,81%	60,97%
3 保健所・保健センター	6,25%	4,28%
4 児童相談所	0,00%	1,82%
5 その他の機関	0,93%	2,43%

6) 子育て支援について 「子育てについてどのような支援があればよいか」の設問に対して、ハイリスク児群の親は「保育・教育の充実」「相談する場所」「親同士の集まり(グループ)」そして「家庭への訪問指導」と回答している。これに対し比較児群では、ハイリスク児群より高い率で「保育・教育の充実」を取り上げている。育児にまつわる事柄についての近隣の人との交流はハイリスク児群の親の方がより頻繁になされている。

母親の就労についての考え方には両群で差がみられ、ハイリスク児の母親の場合は「就労した方がよい」とする意見に賛成する割合が7,6%であるのに対し、比較児群では23,0%である。母親の就労についてはハイリスク児の親はどちらかと言えば否定的な考え方が強く母親は育児に専念すべきだと考えている。

結果の考察

この調査結果の最終的な考察には、なお、資料の詳細な分析が必要ではあるが、今回の研究結果として最も顕著な点は、ハイリスク児群の親の201名58,4%の方が子育て支援の場の必要性を自由記述の欄に提言をしていることである。例えば、1歳8ヶ月の男の子をもつ母親は子どもの入院中に同じ立場にあるお母さんと友達になり、退院後も連絡を取り合うことで育児のストレスはかなり解消できたとし、親同士が情報を交換しあい、仲間づくりができ、専門の先生に相談に乗ってもらったシステム作りの必要性を訴えている。

比較児群の親も発達支援への要望を寄せているが、ハイリスク児の親は社会的な支援をより強く認識していると考えられる。子と親の双方への、子と親各自に対する発達支援への要望にはかなり強いものがあり、親と子を取り巻く養育環境のなかに社会的な支援体制をいかに構築するかは、今後の大きな課題であると言わざるを得ない。

注 参考資料として質問紙調査の全項目と各質問項目に対する回答の集計を掲載する。

【子育てについての調査】

※ 回答の仕方：回答はお母さんがなさって下さい。とくにことわりがきのない場合は、選択肢の中からもっともあてはまるものを1つだけ選んで○をつけて下さい。「いくつでも○をつけて下さい」という場合には当てはまる項目をすべて選んで○をつけて下さい。また、下線や（ ）の中には適当な語句やことばをご記入下さい。

A ご家庭の状況についておたずねします

1. ご家族について

- a ご家族は_____人 父親_____歳 母親_____歳
 b お子さんの数は_____人で、調査対象のお子さんは_____番目の子どもである
 c 父母とお子さん以外に同居なさっている方（祖父母など）…………… 1 いる 2 いない

2. 父母のご職業

- a 母親… 1 常勤 2 自営業 3 パート
 4 専業主婦 5 その他（ ）
 b 父親… 1 常勤 2 自営業 3 パート
 4 無職 5 その他（ ）

3. あなたがお仕事をなさっている場合の働いている理由は次のうちどれですか（いくつでも○をつけて下さい）。

- 1 家計を維持するため 2 家計の足しにするため
 3 自分の自由になるお金が欲しいため 4 夫婦の将来に備えるため
 5 子どもの将来に備えるため 6 自分の能力・技能・資格を生かすため
 7 視野を広げるため 8 仕事が好きだから
 9 働くことが当然だと思うから 10 家業だから
 11 その他（ ）

4. ご家庭の税込み年間収入について、該当する項目番号を○で囲んでください。

- 1 300 万円未満 2 300 ～ 499 万円 3 500 ～ 699 万円
 4 700 ～ 899 万円 5 900 ～ 999 万円 6 1000 万円以上

B お子さんや子育てについておたずねします

1. 現在、お子さんは何歳ですか（_____歳_____月）。また、性別は（ 男 ・ 女 ）。

- a お子さんの出生体重は（_____g）
 b 在胎週数は（_____週_____日）（『母子健康手帳』をご覧ください）
 c NICUの入院期間は（_____日間）
 d お子さんは、

- 1 ふた子、3つ子ではなかった 2 ふた子で生まれた 3 3つ子（以上）で生まれた
 → ふた子以上の場合、それぞれの性別、出生体重、入院期間をお書き下さい。

	性別	出生体重	入院期間
第一子	（ 男 ・ 女 ）	（ _____ g）	（ _____ 日間）
第二子	（ 男 ・ 女 ）	（ _____ g）	（ _____ 日間）
第三子	（ 男 ・ 女 ）	（ _____ g）	（ _____ 日間）
第四子	（ 男 ・ 女 ）	（ _____ g）	（ _____ 日間）

2. 妊娠を知ったときの気持ちはいかがでしたか。

- 1 うれしかった 2 うれしいという思いと同時に、多少不安を感じた
 3 かなり不安な気持ちを感じた 4 予期していなかったのでおどろいた
 6 何も感じなかった 5 何かいやな、わずらわしいことだと思った

3. 出産の時のご主人は
- | | |
|----------------|--------------------|
| 1 分娩室に入り、立ち会った | 2 分娩室の外で待機していた |
| 3 家で待機していた | 4 仕事の関係で関わりがもてなかった |
| 5 無関心だった | |

4. あなたは昔から子ども好きな方でしたか。
- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 かなり好きだった | 2 まあまあ好きだった |
| 3 ふつうだった | 4 あまり好きではなかった |
| 5 どちらかといえば嫌いだった | |

5. あなたは自分の子どもを出産するまでに赤ちゃんの世話をしたことがありますか。
- 1 抱いたことがあった
 - 2 あやしたり、遊んだことがあった
 - 3 ミルクをあげたり、離乳食を食べさせたことがあった
 - 4 オムツをかえたことがあった
 - 5 赤ちゃんの世話や相手をしたことはなかった

6. あなたはご自分の母親に対してどのような印象をもっていますか。
- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 とてもあたたかいと思う | 2 あたたかい方であると思う |
| 3 ふつうだと思う | 4 あまりあたたかい方ではないと思う |
| 5 つめたいと思う | |

7. あなたは日常の子育てについてどのようにお感じになっていますか。もっとも当てはまる番号を○で囲んで下さい。

	よくそう 思う	時々そう 思う	あまり思 わない	全くそう思 わない
a なんとなく子育てに自信がもてないように思う……………	1	2	3	4
b 子育てについていろいろ心配なことがある……………	1	2	3	4
c 子どもと一緒にいると楽しい……………	1	2	3	4
d 子どものことがわずらわしくてイライラする……………	1	2	3	4
e 子どものことでどうしたらよいかわからなくなるこ がある……………	1	2	3	4
f 子どもをうまく育てていると思う……………	1	2	3	4
g 自分一人で子どもを育てているのだと思う……………	1	2	3	4
h 母親として不適格だと思う……………	1	2	3	4
i 子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う……………	1	2	3	4
j 子どもが自分の生きがいだと思う……………	1	2	3	4
k 何かというと子どもに目がいってしまい気疲れする……………	1	2	3	4
l とくに理由はないが、子どものことがとても気になる……………	1	2	3	4
m 育児ノイローゼに共感できる……………	1	2	3	4
n 時間があればできるだけ子どもとかかわるべきだと思う……………	1	2	3	4
o 子どもがなぜ泣いたり、むずかかったり、だだをこねたり…………… するのかわかる……………	1	2	3	4
p 子どもが泣いて叫んでも無視してしまうことがある……………	1	2	3	4
q つい子どもを叩いて、ハッと我にかえることがある……………	1	2	3	4
r 同じ年頃の子どものもったお母さん同士ですぐ仲良しに…………… なれる……………	1	2	3	4
s 早く子どもの手がはなればもっと自由になれる時間が…………… もてると思うことがある……………	1	2	3	4

8. あなたは、今の家庭生活や現在の自分について、どのように感じていますか。当てはまるところに○をつけて下さい。

	とても満足	まあまあ満足	少し不満	とても不満
a 結婚したこと	1	2	3	4
b 子どもを産んだこと	1	2	3	4
c 主婦であること	1	2	3	4
d 母親であること	1	2	3	4
e 妻であること	1	2	3	4
f 女であること	1	2	3	4

9. お子さんの成長・発達ぶりはお母さんの目からみてどのような状態とお考えですか。

- 1 かなり順調である 2 まあ順調である 3 ふつうだと思う
4 少し遅れぎみだと思う 5 かなり遅れ気味だと思う

10. お子さんを育てていて何か困ったり、心配ごとがあったとき、相談できる方が現在いますか（いくつでも○をつけて下さい）。

- 1 夫 2 夫の親 3 自分の親
4 自分のきょうだい 5 親戚 6 昔からの友人・知人
7 幼稚園・保育園の先生 8 医師 9 保健所・市町村保健センター
10 児童相談所 11 心理カウンセラー 12 近所の人
13 子どもの遊び友達の親 14 その他（具体的に）

11. お子さんを育ててきて、下記のどの場所を受診したことがありますか（いくつでも○をつけて下さい）。

- 1 入院していた病院 2 その他の病院・診療所
3 保健所・保健センター 4 児童相談所
5 その他（）

11-2. 上記の機関で一番役にたったのはどこですか、1つだけ挙げて下さい（記号で回答して下さい）。

- a 一番役にたった機関（_____）
b 不安は……… 1 解消された 2 解消されなかった 3 不安はとくに感じていなかった

11-3. 相談した内容はどのようなことでしたか（いくつでも○をつけて下さい）。

- 1 運動機能の遅れ 2 言葉の遅れ
3 病気にかかりやすい 4 落ち着きがないなど行動上のこと
5 睡眠や夜泣きのこと 6 食事の量が少ないこと
7 指しゃぶりやくせのこと 8 排尿・排泄のこと（昼間のおもらしなど）
9 おねしょ（夜尿）のこと 10 なんとなく
11 自分自身のこと 12 体重や身長の伸びがよくないこと
13 発育・発達が全般的に遅れぎみなこと
14 その他（）

12. お子さんを育てていて「不安」が解消されたきっかけは何ですか。

- 1 子どもの発育の様子をみていて 2 子どもが保育器からでたから
3 子どもが退院できたから 4 医師・保健婦の方の言葉から
5 退院後の初めての健診で 6 保健所の健診で
7 「不安」は解消されていない 8 とくに「不安」はなかった
9 その他（）

13. 子育てについてどのような支援があればいいとお思いですか（いくつでも○をつけて下さい）。

- 1 経済的支援 2 保育・教育の充実 3 家庭への訪問指導
4 相談する場所 5 親同士の集まり（グループ）
6 その他（）

14. 最近は就労しているお母さん方が多くなっていますが、あなたご自身の就労についてどのようにお考えですか。
- 1 就労せず子育てに専念した方がよい 2 できれば就労せず子育てに専念した方がよい
3 条件によっては就労した方がよい 4 就労した方がよい
15. お子さんにきょうだいがいる場合、そのきょうだいについてあなたはどのような思いをおもちですか。
- 1 きょうだいにもほぼ同じように関心を向けている
2 きょうだいに目がいきとどかない
3 この子どもに目がいきとどかない
4 その時々に対応におわれてどの子どもも十分な関わりをもてていない
16. 身近な親族（おじいちゃん、おばあちゃんなど）は、
- 1 私の子育てを理解し協力してくれている
2 子育てについての考え方が異なっている場合が多くわずらわしい
3 私の子育てにあまり関心をもっていない
4 身近に親族はいない
17. ご主人とお子さんのことについて話し合う機会がありますか。
- 1 よくある 2 あまりない 3 ほとんどない 4 まったくない
18. ご主人は積極的にお子さんの相手をされますか。
- 1 積極的である 2 まあまあ積極的である 3 あまり積極的でない 4 消極的である
19. ご近所にふだん世間話をしたり子どもの話をする相手はいますか。
- 1 たくさんいる 2 数名いる 3 ほとんどいない 4 まったくない
20. 身近な人たちと子どもを預けあったりすることがありますか。
- 1 よくある 2 たまにある 3 ほとんどない 4 まったくない
21. 子育て支援の場として、どのような場を必要としますか。ご自由にお書き下さい。

お答え下さいましてありがとうございました。

なお、この調査にご意見ご希望がありましたらぜひお寄せ下さい。

【子育てについての調査】

※ 回答の仕方：回答はお母さんがなさって下さい。とくにことわりがきのない場合は、選択肢の中からもっともあてはまるものを1つだけ選んで○をつけて下さい。「いくつでも○をつけて下さい」という場合には当てはまる項目をすべて選んで○をつけて下さい。また、下線や（ ）の中には適当な語句やことばをご記入下さい。

A ご家庭の状況についておたずねします

1. ご家族について

- a ご家族は_____人 父親_____歳 母親_____歳
b お子さんの数は_____人で、調査対象のお子さんは_____番目の子どもである
c 父母とお子さん以外に同居なさっている方（祖父母など）…………… 1 いる 2 いない

2. 父母のご職業

- a 母親… 1 常勤 2 自営業 3 パート
4 専業主婦 5 その他（ ）
b 父親… 1 常勤 2 自営業 3 パート
4 無職 5 その他（ ）

3. あなたがお仕事をなさっている場合の働いている理由は次のうちどれですか（いくつでも○をつけて下さい）。

- 1 家計を維持するため 2 家計の足しにするため
3 自分の自由になるお金が欲しいため 4 夫婦の将来に備えるため
5 子どもの将来に備えるため 6 自分の能力・技能・資格を生かすため
7 視野を広げるため 8 仕事が好きだから
9 働くことが当然だと思うから 10 家業だから
11 その他（ ）

4. ご家庭の税込み年間収入について、該当する項目番号を○で囲んでください。

- 1 300 万円未満 2 300 ～ 499 万円 3 500 ～ 699 万円
4 700 ～ 899 万円 5 900 ～ 999 万円 6 1000 万円以上

B お子さんや子育てについておたずねします

1. 現在、お子さんは何歳ですか（_____歳_____月）。また、性別は（ 男 ・ 女 ）。

- a お子さんの出生体重は（_____g）
b 在胎週数は（_____週_____日）（『母子健康手帳』をご覧ください）
c お子さんは、
1 ふた子、3つ子ではなかった 2 ふた子で生まれた 3 3つ子（以上）で生まれた

2. 妊娠を知ったときの気持ちはいかがでしたか。

- 1 うれしかった 2 うれしいという思いと同時に、多少不安を感じた
3 かなり不安な気持ちを感じた 4 予期していなかったのでおどろいた
6 何も感じなかった 5 何かいやな、わずらわしいことだと思った

3. 出産の時のご主人は

- 1 分娩室に入り、立ち会った 2 分娩室の外で待機していた
3 家で待機していた 4 仕事の関係で関わりがもてなかった
5 無関心だった

4. あなたは昔から子ども好きな方でしたか。

- 1 かなり好きだった
- 2 まあまあ好きだった
- 3 ふつうだった
- 4 あまり好きではなかった
- 5 どちらかといえば嫌いだった

5. あなたは自分の子どもを出産するまでに赤ちゃんの世話をしたことがありますか。

- 1 抱いたことがあった
- 2 あやしたり、遊んだことがあった
- 3 ミルクをあげたり、離乳食を食べさせたことがあった
- 4 オムツをかえたことがあった
- 5 赤ちゃんの世話や相手をしたことはなかった

6. あなたはご自分の母親に対してどのような印象をもっていますか。

- 1 とてもあたたかいと思う
- 2 あたたかい方であると思う
- 3 ふつうだと思う
- 4 あまりあたたかい方ではないと思う
- 5 つめたいと思う

7. あなたは日常の子育てについてどのようにお感じになっていますか。もっとも当てはまる番号を○で囲んで下さい。

	よくそう 思う	時々そう 思う	あまり思 わない	全くそう思 わない
a なんとなく子育てに自信がもてないように思う……………	1	2	3	4
b 子育てについていろいろ心配なことがある……………	1	2	3	4
c 子どもと一緒にいると楽しい……………	1	2	3	4
d 子どものことがわずらわしくてイライラする……………	1	2	3	4
e 子どものことでどうしたらよいかわからなくなる…………… ある	1	2	3	4
f 子どもをうまく育てていると思う……………	1	2	3	4
g 自分一人で子どもを育てているのだと思う……………	1	2	3	4
h 母親として不適格だと思う……………	1	2	3	4
i 子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う……………	1	2	3	4
j 子どもが自分の生きがいだと思う……………	1	2	3	4
k 何かというと子どもに目がいてしまい気疲れする……………	1	2	3	4
l とくに理由はないが、子どものことがとても気になる……………	1	2	3	4
m 育児ノイローゼに共感できる……………	1	2	3	4
n 時間があればできるだけ子どもとかかわるべきだと思う……………	1	2	3	4
o 子どもがなぜ泣いたり、むずかったり、だだをこねたり…………… するのかわかる	1	2	3	4
p 子どもが泣いて叫んでも無視してしまうことがある……………	1	2	3	4
q つい子どもを叩いて、ハッと我にかえることがある……………	1	2	3	4
r 同じ年頃の子どもをもったお母さん同士ですぐ仲良しに…………… なれる	1	2	3	4
s 早く子どもの手をはなればもっと自由になれる時間が…………… もてると思うことがある	1	2	3	4

8. あなたは、今の家庭生活や現在の自分について、どのように感じていますか。当てはまるところに○をつけて下さい。

	とても満足	まあまあ満足	少し不満	とても不満
a 結婚したこと	1	2	3	4
b 子どもを産んだこと	1	2	3	4
c 主婦であること	1	2	3	4
d 母親であること	1	2	3	4
e 妻であること	1	2	3	4
f 女であること	1	2	3	4

9. お子さんの成長・発達ぶりはお母さんの目からみてどのような状態とお考えですか。

- 1 かなり順調である 2 まあ順調である 3 ふつうだと思う
4 少し遅れぎみだと思う 5 かなり遅れ気味だと思う

10. お子さんを育てていて何か困ったり、心配ごとがあったとき、相談できる方が現在いますか（いくつでも○をつけて下さい）。

- 1 夫 2 夫の親 3 自分の親
4 自分のきょうだい 5 親戚 6 昔からの友人・知人
7 幼稚園・保育園の先生 8 医師 9 保健所・市町村保健センター
10 児童相談所 11 心理カウンセラー 12 近所の人
13 子どもの遊び友達の親 14 その他（具体的に)

11. お子さんを育ててきて、下記のどの場所を受診したことがありますか（いくつでも○をつけて下さい）。

- 1 出産した病院 2 その他の病院・診療所
3 保健所・保健センター 4 児童相談所
5 その他（)

11-2. 上記の機関で一番役にたったのはどこですか、1つだけ挙げて下さい（記号で回答して下さい）。

- a 一番役にたった機関（)
b 不安は……… 1 解消された 2 解消されなかった 3 不安はとくに感じていなかった

11-3. 相談した内容はどのようなことでしたか（いくつでも○をつけて下さい）。

- 1 運動機能の遅れ 2 言葉の遅れ
3 病気にかかりやすい 4 落ち着きがないなど行動上のこと
5 睡眠や夜泣きのこと 6 食事の量が少ないこと
7 指しゃぶりやくせのこと 8 排尿・排泄のこと（昼間のおもらしなど）
9 おねしょ（夜尿）のこと 10 なんとなく
11 自分自身のこと 12 体重や身長伸びがよくないこと
13 発育・発達が全般的に遅れぎみなこと
14 その他（)

12. お子さんを育てていて「不安」が解消されたきっかけは何ですか。

- 1 子どもの発育の様子をみていて 2 子どもが保育器からでたから
3 子どもが退院できたから 4 医師・保健婦の方の言葉から
5 退院後の初めての健診で 6 保健所の健診で
7 「不安」は解消されていない 8 とくに「不安」はなかった
9 その他（)

13. 子育てについてどのような支援があればいいとお思いですか（いくつでも○をつけて下さい）。

- 1 経済的支援 2 保育・教育の充実 3 家庭への訪問指導
4 相談する場所 5 親同士の集まり（グループ）
6 その他（)

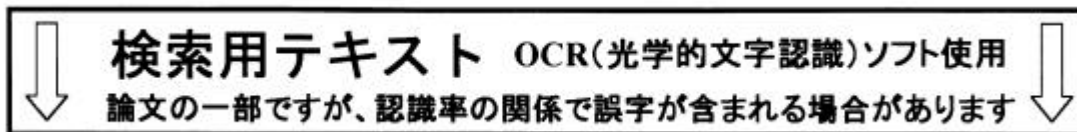
14. 最近は就労しているお母さん方が多くなっていますが、あなたご自身の就労についてどのようにお考えですか。
- 1 就労せず子育てに専念した方がよい 2 できれば就労せず子育てに専念した方がよい
3 条件によっては就労した方がよい 4 就労した方がよい
15. お子さんにきょうだいがいる場合、そのきょうだいについてあなたはどのような思いをおもちですか。
- 1 きょうだいにもほぼ同じように関心を向けている
2 きょうだいに目がいきとどかない
3 この子どもに目がいきとどかない
4 その時々に対応におわれてどの子どもも十分な関わりをもてていない
16. 身近な親族（おじいちゃん、おばあちゃんなど）は、
- 1 私の子育てを理解し協力してくれている
2 子育てについての考え方が異なっている場合が多くわずらわしい
3 私の子育てにあまり関心をもっていない
4 身近に親族はいない
17. ご主人とお子さんのことについて話し合う機会がありますか。
- 1 よくある 2 あまりない 3 ほとんどない 4 まったくない
18. ご主人は積極的にお子さんの相手をされますか。
- 1 積極的である 2 まあまあ積極的である 3 あまり積極的でない 4 消極的である
19. ご近所にふだん世間話をしたり子どもの話をする相手はいますか。
- 1 たくさんいる 2 数名いる 3 ほとんどいない 4 まったくいない
20. 身近な人たちと子どもを預けあったりすることがありますか。
- 1 よくある 2 たまにある 3 ほとんどない 4 まったくない
21. 子育て支援の場として、どのような場を必要としますか。ご自由にお書き下さい。

--

お答え下さいましてありがとうございました。

なお、この調査にご意見ご希望がありましたらぜひお寄せ下さい。

--



【要約】家庭を核とする地域社会の社会的・文化的な社会資源・環境を子育て支援としていかに構築していくかは、今の社会に課せられた大きな課題である。特に、ハイリスク児として出生した児の育児に関わる様々な支援体制を一層整備し、育児を取り巻く環境の変化に対応した手立てが要請される・現実にハイリスク児の親達が子育てに直面している過程でいかなる問題を投げ掛けているのか、その実態を調査しその姿を浮き彫りにすることを意図した。全国7か所のNICUの施設を対象に母親の育児についての意識、さらには育児支援として何を期待しているかを25項目の質問紙調査法により検討した。明らかな障害を認めえない0歳から6歳未満の乳幼児の母親750名に質問紙を郵送し回答を求めた。346名から回答がえられ、回収率は46・13%であった。なお・ハイリスク児の親が抱えている問題を正期産児との対比により、その問題性を極めることとした。比較児群としての正期産児は7施設のうち3施設を対象に同じ年齢層の乳幼児230名の母親である。結論としてハイリスク児群の親は発育・発達への不安感が高く、ハイリスク児と親だけでなく、その周囲の人たちをも視野にいれた支援システムの構築を強く要望しており、その意味においても社会的な支援体制の確立が望まれている。